

1 学校教育目標 = 学府教育目標

郷土を愛し、志をもち、自己実現をめざす生徒

～ よりよい社会と幸福な人生を自ら切り拓く“未来の創り手”の育成に向けて～

自分がやりたいこと（志）が社会貢献となる姿が「自己実現」である。生徒は、（いじめ等ない）安全欲求・（学級等での所属感がある）社会的欲求が満たされることで、尊厳欲求・自己実現欲求へと向かう。学校は、家庭、地域だけでなく、福祉・医療機関とも連携することで、生徒の自己実現を支える。

また、自己実現に向かって絶えず成長するための基盤を育むため、2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」（「個別最適な学び」と「協働的な学び」）を一体的に充実し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていく。

全ての生徒が、学校・学級・部活動等に所属意識をもてるようにするため、学級開き、役割分担、日頃からの評価（個々の生徒にあった温かい声掛け）、さらには、体育大会・よつば祭といった協力して取り組む行事を機会に、学級への所属感が高まる支援を行う。

また、城山中の生徒に必要な力を、困難に対し粘り強く取り組み乗り越える力、失敗を恐れず決めたことに挑戦する力、他者と協働し課題を解決する力と押さえ、みんなが生活しやすい学級や学校づくりに向けて、生徒一人一人の正しい判断力と行動力を身につけさせたい。

このように生活しやすい集団の中で、よい思い出作りとともに学級への所属感をもてた生徒は、知性への欲求、自分の目標設定という思いが芽生え、主体的に学ぶ生徒へと育っていくと考える。

2 めざす子供の姿(生徒像)【重点目標】(小学部でも中学部でも願う姿)

自己実現を目指す際、生徒個々の生きる力の基盤となる「知」・「徳」・「体」調和のとれた成長を、そして、「生命尊重」「郷土愛」を重点目標に定め、指標を設定しPDCAサイクルをまわす。

R4%/R5% →R6目標

【知育】 目標をもち、自己・他者・対象と対話し、学びを深める子供

☆他の生徒や先生とかかわり合いをもち、学びを深めていると考える生徒の割合

(R4=79% R5=84%) → 88%

【徳育】 自他を尊重する心をもち、正しく判断し、よりよい自分を発揮する子供

☆ルールを守り、協力する雰囲気がある学校（学級）であると考えられる生徒の割合

(R4=80% R5=81%) → 85%

【体育】 しなやかな心をもち、心身を鍛え合い、困難に挑戦する子供

☆保健体育科の授業や部活、社会体育やクラブチーム等に参加したり、個人でトレーニングをしたりして自分の心身を鍛えていると答える生徒の割合

(OR4=79% R5=74%) → 80%

【生命】 かけがえのない命を大切にし、精一杯生きる子供

☆「命」を大切にしながら、周りの人や様々なもの、諸活動に自ら関わっていると答

える生徒の割合

(R4=85% R5=90%) →95%

【地域】 郷土に学び、自ら考え、地域社会によりよく関わる子供

☆今後、機会があれば、地域貢献活動に参加したいと答える生徒の割合

(R4=55% R5=64%) → 70%

3 学校経営目標 (めざす子供の姿【重点目標】実現のために、重点化すること)

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 (知育)
(自ら設定した課題を自己・他者・対象と対話しながら追及することができる授業づくり)
- (2) 生徒の思いを大切に、生徒主体の活動の推進 (徳育)
(生徒自らが、自分の考えをもち、他者と共有することで、自分が所属する集団をよりよいものにしていくための活動の充実)
- (3) 失敗を恐れず、前に進む力の育成 (体育)
(マナーや規範意識を身につけ、自発的に行動できるようになることで、安心して生活できる集団づくりを進め、強くしなやかな体と心を育成するための活動の充実)
- (4) 深い生徒理解から、とことん寄り添う組織的生徒指導の推進 (生命)
(誰もが大切にされていると感じる集団づくり、特別な配慮を要する生徒への対応 (SC、SSWとの連携)、ケース会議の実施…虐待・貧困等、いじめ・不登校等)
- (5) 小中一貫教育の推進と地域と連携・協働した教育活動の推進 (地域)
(9年間のカリキュラムづくりとそれに基づいた教育活動、地域とともにある学校づくりの推進)
- (6) 「OUR TEAM」 自分の責任を果たすことで、私たちの城山中学校に！
(管理職の目配り・気配り・支援。学年主任を中心とした学年集団作り、学級担任による行事や日常生活による生徒の学級所属意識の高揚、部活動顧問による部員の一体感の醸成)

4 学校運営方針 (経営方針(1)～(6)に沿った具体的取り組み)

- (1) 校生活アンケートや学年会から生徒の実態把握を行い、指導部長会で指導目標 (目指す姿) を設定し、学校全体で同じ方向を向いて指導できるようにする。
- (2) 小中9年間で生徒の「自ら課題を設定し、追究していく力」「先を見通して計画を立てる力」を育成するために、学府統一の方法で家庭学習を進める。
- (3) 「調べ学習→まとめ→発表」のサイクルを見直し、テーマ設定、調査方法など生徒の探求的な学びとなるように、総合的な学習の時間の計画を検討し、実践する。
- (4) プロジェクト活動の充実や専門委員会の充実と精選を行うことで、生徒が主体性を発揮 (巻き込む力や巻き込まれる力) できる活動を実施する。
- (5) 自分や周りの人の良さに気づき、自分が所属する集団をより良いものにしていくために、キャリアパスポートを活用し、個に応じた支援を行う。
- (6) 自分でよりよい選択ができる生徒になるために、社会性や規範意識をもち、どのような行動をすればよいか考えることができるように支援していく。
- (7) 小中でレジリエンスを高める活動を推進する。レジリエンス講座だけでなく、行事や日常生活の中でも意図的に指導していく。
- (8) 副主任者会で、支援が必要な生徒の具体的な支援の明確化や共通化を図る。(状

況に応じて SC や SSW の参加をお願いする。) また、必要に応じて、ケース会議をもち、十分に協議し支援をする。

- (9) 一人一人を大切にしたい教育支援を行うことで、誰もが安心して生活できる集団作りを目指す。
- (10) チャレンジ活動の推進のため、生徒の力を活用し、多くの生徒が参加できるようにすることで、地域とともにある学校づくりを目指す。
- (11) 昨年度作成した学齢指標を活用し、発達段階に応じた計画的な指導を行うことで、学びをつなげ子どもを伸ばす小中一貫教育を推進する。
- (12) 異なる価値観がある中で、目標を達成するために、自分は何ができるのか。自分事として考え、よりよい集団作りをする職員集団となる。
- (13) 教職員の同僚性を向上させ、教職員同士が気軽に話をしたり、相談をしたりする受容的・支持的・相互扶助的な人間関係を作る。

5 学校評価における数値目標 (含：磐田市の目標指標)

■【生徒】■ R4%/R5% →R6目標

- (1) 学校が楽しい。(市) 79/84→85%
- (2) 授業の内容がよく分かる。(市・県) 81/85→88%
- (3) 今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある。(市) 50/49→65%
- (4) 進んで先生に聞いたり自分で調べたりして学習している。(市) 64/68→70%
- (5) 学校に相談できる(信頼できる)先生や友人がいる。(市・県) 83/78→90%
- (6) あいさつや返事がきちんとできる。 89/91→95%
- (7) 授業で自分の意見や考えを、筋道を立てて発表している。 55/51→65%
- (8) 城山中学校の生徒会活動(専門委員会、その他学級の係活動)に協力して取り組んでいる。 87/87→90%
- (9) 城山中の生徒であることに誇りを感じている。 78/79→80%

■【保護者】■ R4%/R5% →R6目標

- (1) 城山中及びよつば学府が目指そうとしている子供の姿や教育内容について知っている。 82/78→85%
- (2) 城山中の先生は、子供のことを理解して指導にあたっている。 88/87→90%
- (3) 子供と日常的に会話をしている。 96/96→98%

■【教師】■ R4%/R5%→R6目標

- (1) 学府教育目標・目指す子供像を意識して指導をしている。 97.4/99→100%
- (2) 学校経営方針「小中一貫教育の推進と地域と連携・協働した教育活動の推進」を意識して行いましたか。 66→80%

6 勤務環境改善

- (1) ミラタイムによる出退勤状況及び部活動申請により、勤務実態の把握を管理職が行う。時間外勤務も年々減少傾向にあるが、さらに業務の効率化をすすめる。勤務時間を意識したスケジュール管理ができるよう教職員の意識改革を進める。
- (2) 教職員一人一人が「働き方改革」のためにできることを考え、学年会や分掌部会

で話し合う機会を設定し、職員会議や運営委員会で提案する場をつくり、一つでも実現できるように努める。

- (3) ガイドラインに沿った部活動の適切な運営に努め教員の負担軽減を進める。また、磐田市の部活動地域ロードマップに沿って、地域移行を計画的に進めていく。
- (4) 個々の分掌業務において、教育計画を働き方改革の視点で再構築を求める。
- (5) コミュニティ・スクールやよつばプロジェクトなどによる保護者・地域・外部機関、団体等との連携による外部人材の活用、スクールサポートスタッフのより効果的活用を進める。

7 小中一貫教育

- (1) 令和6年度から「第三期 施設分離型一体校 ～発信～」へ移行する。今まで行ってきたよつば学府小中一貫教育の成果と課題を、地域や保護者に発信することで、社会に開かれた教育課程を推進していく。また、次期9か年計画を作成する中で、学校教育目標や重点目標の見直しを図る。